

ご周知の通り、かやぶんによる、北杜市埋蔵文化財センターと明野歴史民俗資料館の指定管理運営は3月をもって終了いたします。同時に、明野歴史民俗資料館は閉館いたします（北杜市の歴史民俗分野の展示は現長坂郷土資料館に集約されます）。今回と次回のかやぶんかわら版では、平成14年の開館から現在に至るまでの、資料館の歴史を振り返ります。

開館から10年弱、展示は2名の学芸員が行ってきました。今号では、初代学芸員住友智子さんが、資料館の歴史について振り返ります。

5歳の息子と生まれたばかりの娘に囲まれて、のんびりと自宅で過ごす毎日です。こうやって文章を書くのも数年ぶり。私が旧明野村に来たのが平成11年でしたから、もうひと昔前ですね。すっかりオバサンになりました。

内海さんから「企画展を振り返ってください」と言われ、懐かしさにつけりながら思い浮かぶのは、どれほどNPO会員の皆様を支えられていたかということ。貴重な民具を寄贈、または貸し出していただいたり、野外調査への立ち会いや古文書解説のご教示をいただいたり。また体験教室の講師や、祝日に資料館を開館するためのボランティアまで引き受けてくださいました！（宴会にも誘っていただきました。）多くのご協力のもと展示をはじめとする資料館の活動が支えられていたのです。当時にも増して、改めてその支えの大きさに感謝を申し上げなければなりません。

そして最も心に残るのが収蔵民具の聞き取り調査のこと。まだ中央公民館改修の計画段階でした。公民館内の茅ヶ嶺郷土館に集められた膨大な数の民具。しかし使い方や呼び名さえも分からないものがたくさんある。展示作業の出発点は陳列するモノについての情報収集です。どうしたものか……。救ってくださったのは、会員のほとんどの方が所属しておられた明野村郷土研究部の皆様でした。民具の使用体験談を

織り交ぜながら貴重なお話をしてくださったことで、民具情報カードの作成に至ることができました。そしてこの調査のほかにも折に触れて昔の生活様式、伝統文化、思想や技術などについて様々なお話をしてくださり、実践もしていただきました。それらの情報はまさに「おじいちゃん・おばあちゃんもとの知恵袋」であり、それを基に現在も資料館の企画運営が成り立っています。

こうして受け継いだ「知恵袋」は体験学習や展示を通して、地域の子どもたちにどの程度伝えることができたのか。資料館が活動を休止する今後も、情報の宝庫である「知恵袋」が活用され続けることを願います。今、私の隣りで無邪気に遊ぶ幼い息子や娘に、そのまた次の世代に、いつかその知恵が受け継がれますように。

住友智子(旧姓川村)



資料館開館記念式典



(第1回企画展「住友学芸員による案内」)



資料館開館時のスタッフ集合写真



小学生見学 住友学芸員による解説



第2回企画展「布づくりの道具展 ―蚕から衣類へ―」 機織り体験の様子

